



いとうの杜新聞

令和4年9月号

介護老人保健施設 いとうの杜
 短期入所生活介護 いとうの杜
 居宅介護支援事業所 いとうの杜
 通所リハビリテーション いとうの杜
 2022年9月15日 発行 第138号

瞬く間に 秋の気配が

9月に入り朝晩は冷え込む季節となりました。施設入り口の掲示物が花火見物からお月見に変化しております。(右の写真)
 秋は十五夜の他に敬老の日、秋分の日といろいろな行事が続きます。各フロアではそれぞれ工夫し、秋を感じていただけるようにしています。レクリエーション活動等いろいろ制限がありますが、せめてお食事だけは季節に合わせたメニューを提供させていただきたいと思っております。



夏の風物詩 すいか割り・夏祭り

食べ物を粗末にははいけません。すいかはビーチボールで代用しましたが、皆様力が強く、本物のすいかも割れそうな勢いで楽しんでいただけました。おやつは本物のすいかです。今年初のすいかだという方がほとんどでした。とっても甘くておいしく、ペロッと召し上がられていました。

2階 草野



夏祭りの縁日を思い出すよう輪投げで皆様盛り上がりました。高得点をねらって必死に輪っかを投げていました。縁日に付き物の屋台メニューは、焼きそば・たこ焼き・お好み焼きの盛り合わせとジュースで昔に戻ったように笑顔が見えました。おまけに駄菓子もいただきました。

6階 植田

総師長室だより

みなさま、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

市内各所では、新型コロナウイルス感染症発生で大変な思いをしています。私たちの施設でも、今年3月クラスター発生、感染拡大の経験をしており、利用者様及びご家族の皆様には多大なご迷惑、ご心配をおかけしました。

前回の教訓を活かし、職員一同感染対策防御に努めております。しかしながら、ゼロに抑えることはなかなか難しく、増えたり減ったりを繰り返しております。発生したら拡大することを最小限に抑えることでこの感染症に対応してまいります。

私事ではありますが、孫がピカピカの一年生になり初めての夏休みでした。しかし、コロナに親子で感染してしまい、楽しみにしていた海に来ることができませんでした。買い物にも行けず、食料難民となったようです。食料やお菓子を沢山送ったら、孫が喜んで飛び跳ねている写真を送ってきました。そんな夏休みでした。

季節の変わり目ですので、どうぞご自愛ください。

看護介護部 部長 保坂 はつの

新型コロナウイルス感染症に関する対応について

当施設では引き続きご利用者の安全確保、感染症対策により、**面会は中止させて頂きます。**
 今後も状況に応じての対応になると思われま。面会開始の際は、ホームページ上または、書面にてご案内申し上げます。先がまだ見通せぬ新型コロナウイルス感染症ですので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。
 利用者様の日常をいとうの杜新聞の紙面に於いて掲載しております。是非ご覧ください。

医療法人啓仁会 介護老人保健施設いとうの杜

伊東按針祭と 花火

過行く夏を振り返って

8月といえば例年按針祭が開催されてきました。ところがここ数年新型コロナウイルス感染症の流行により中止や規模縮小を余儀なくされてきましたが、今年は制限なしの開催でした。

按針祭豆知識

伊東市民なら誰でも知っている按針祭。でも今更聞けない按針祭の由来、こっそり教えます。西暦1,600年、イギリス人の航海士ウィリアム・アダムス他数名が現在の大分県に漂着しました。当時の権力者といえば徳川家康。彼らを家来として迎え入れ、江戸幕府を開くと家康は彼らに洋式帆船の建造を命じます。造船条件に合った場所が伊東でした。松川河口で大型帆船を完成させ、家康はウィリアム・アダムスに三浦按針という名を与えました。この三浦按針の功績を称え、按針祭というお祭りが行われるようになりました。

按針祭の目玉といったら按針祭花火大会。8月10日には1時間に渡り壮大な夜空の演出をご覧になった方も大勢いらしたのではないのでしょうか。感染症に気を遣わず思い切り外に出られる日を心待ちにしています。



9月のレクリエーション と行事予定

感染状況により予定が変更
になる場合があります

- デイ 誕生日会 9/1 (木)、9/27 (火)
- プチ旅行～世界のお菓子を食べてよう！台湾編～ 9/7 (水)、9/13 (火)
- 第一回モリンピック 9/17 (土)
- 2階 一口ケーキ盛り合わせと紅茶で素敵なティータイムを！ 9/15 (木)
- 3階 ケーキバイキングと紅茶で素敵なティータイムを！ 9/14 (水)
- 4階 敬老会（昔ながらの駄菓子を楽しむ会） 9/16 (金)
- 5階 誕生日会 9/2 (金)
- 杜カフェで冷たいコーヒーフロートを！ 9/8 (木)
- 好評につきクリームソーダを！ 9/14 (水)
- 秋祭り屋台おやつバイキング 9/27 (火)
- 6階 焼きたてフランクフルトを食べよう！ 9/16 (金)

移動美容室「クランチケア」さんがいとうの杜に来ます。

9月 9日(金)
9月26日(月)

ご希望の方は各フロアスタッフまで！！

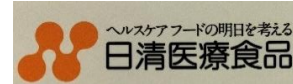
皆様と一緒に楽しい紙面づくりをしていきたいと思っております。

ご意見や投稿などご応募お待ちしております！

〒414-0002 伊東市湯川 288番地9 ホームページ
 「いとうの杜新聞」編集部まで <https://www.itou-mori.jp/>
 電話 0557-35-4165 FAX 0557-35-4101



**日清医療食品です
(私の趣味)**



いつもの杜様のお食事サービスでお世話になっております日清医療食品です。いつもありがとうございます。私は管理責任者（SV）をさせていただいております伊豆田（いずた）佑樹と申します。横浜支店より名古屋支店に移動配属となりました。施設様の方には、「名前が伊豆担当になったの？」と言われましたが、その辺は人事のことなのでわかりません。一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



私は家族でキャンプをすることが大好きです。小学生の子ども2人と川で遊んだり焚火をしながらお酒を飲むことが今一番はまっています。6月に引っ越してきたばかりなので、伊豆や伊東の良いところをたくさん教えてください。新たな地静岡県の沼津営業所で仕事に遊びに頑張りたいと思います。

日清医療食品では、季節のフルーツや楽しい行事食等で皆様に喜んでいただけるよう業務に励んで参ります。

**夏の風物詩
かき氷、8月も実施**

7月のかき氷は盛り上がっていました。8月も猛暑は続いていたので各フロアで大盛況でした。

大型の電動かき氷機2台を使用してあっという間に出来上がり。皆様にお待たせせず提供でき、皆さん大喜びでした。「何十年ぶりに食べたかき氷！最高だよ」。

また来年企画しますね！！



**通所の夏祭り
part1**

今年は通所ケア職員主催の夏祭りと通所リハビリ職員による夏祭りの2部構成でお届けいたします。まずはpart1として通所ケア職員の夏祭りの紹介です。

今年の出し物は、職員による「早飲み・早食い&嘘つきは誰でしょう？」です。



早飲み・早食い競争
①コーラ500ml早飲み競争
②カップかき氷早食い競争

①の優勝者はAのスタッフ
②の優勝者はCのスタッフ
Aは主任です。2種目参加



嘘つきは誰でしょう？
③お酢を飲んでるのは誰？
④和からし入りシュークリームを食べているのは誰？

③2人がお酢で、1人が水です
お酢を飲んでいる人はAとBです
④からしが効いている人はAとBです



メインイベントとして
⑤カップやきそば早食い競争

⑤今日一番の盛り上がりはペヤングカップやきそば超大盛り（3人前）の早食いです
優勝者はAです

場内は「頑張れー！」と応援する声や爆笑する声に包まれました



part2は来月行います。「夏祭り」というより「秋祭り」ですね。

母への幸せ介護

自分が大人になり、両親もゆっくりと歳をとっていく。昨日と今日と、なにも変わらない両親の姿がある。年が明け、一年が過ぎ、さらに一年ずつ過ぎていく。

両親はいつの間にか、おじいちゃん、おばあちゃんと呼ばれるようになった。そして忘れていた、両親の介護が目の前に迫ってきていることを知るのだ。昨年、93歳の母が脳出血で寝たきりになった。

私は62歳。3年前から自宅に近い介護施設で働いている。本職は自動車整備士であるため、若い頃の経験が活かされない職場であったが、介護の仕事を通じてお風呂の介助や、オムツの交換、食事の介助、車椅子の乗せ方など、一通り経験していたため、寝たきりの母が介護が必要になっても、殆どストレスを感じることも無く世話をすることができた。私の介助で母をリクライニングの車椅子に座らせ、リビングで家族一緒に食事ができたことが嬉しかった。

心配なのは母のことよりもむしろ父の方だった。普段から夫婦で会話などあまりしなかったが、寂しさからなのか、それとも今まで会話をしてこなかったことへの罪滅ぼしなのか、母の傍らに寄り添いつつまでも話をするようになった。本当は母も疲れているから「そろそろベッドに寝かせたほうが良いのだけど…」と思っても父の話は止まらない。私のストレスは母ではなく父の方に感じていた。

母への食事の食べ方にもあれこれと口を挟むようになった。こういうときには本当にどうして良いかわからない。あるとき、私に隠れて母に無理やりご飯を食べさせようとする父を咄嗟に大声で叱ってしまった。食事からオムツの交換や衣服の着替えなどやることはたくさんある。しかしながら父に任せることはできない。本当はもっと母の面倒を見たいのだろうとは思った。

諸々の手続き後、母はデイサービスに通うようになり、私の負担も少し楽になったが、母は肺炎を発症し入院。今年の1月に天寿を全うした。父にもっと介護を手伝わせてあげれば良かったと後悔した。色々考えることはある。正しい介護なんていうものはなく、どこの家でも同じように高齢者が居て要介護になり、そして最後の日を迎えるものである。母の容体が急変したと病院からの呼び出しがあり、駆け付けたのは夜が明ける前だった。病院に到着し急ぎ足で病室に向かったが、母はすでに呼吸をしていなかった。顔にふれたらまだ暖かい。手を握ったら柔らかくて、母が手を握り返してくれるような気がした。なぜか悲しみを感じなかったのは、母の手を握りながら「生まれ変わっても母さんの子供に生まれるから」と、心の中で約束したから。

母の介護をしながらたくさんお話もできた。私が一方的に声をかける。「ご飯おいしいね」、「オムツ替えたよ、すっきりしたね」など、声は出せなくても母の顔はいつも笑顔で、時には赤ちゃんのように愛らしい表情も見せてくれた。母への介護のとき、私は本当に幸せだった。

私は今でも介護施設で仕事をしている。自分の体力が弱ってきているので退職を考えていたが、「もう少し頑張ってみようかな」と思い直した。私の様に年齢を重ねた人間でも、介護の仕事ができたことに感謝している。介護の経験があれば寝たきりになった親への介護は、心に余裕をもち、大変なことばかりでなく、幸せな介護、なにより優しい介護ができることを知った。

母が亡くなったあとも介護の仕事をしている理由は、母への介護のときがとても幸せだったからだ。そして今でも、その幸せが続いているかのように思えるからである。



ショートステイ介護職員 六郷 透